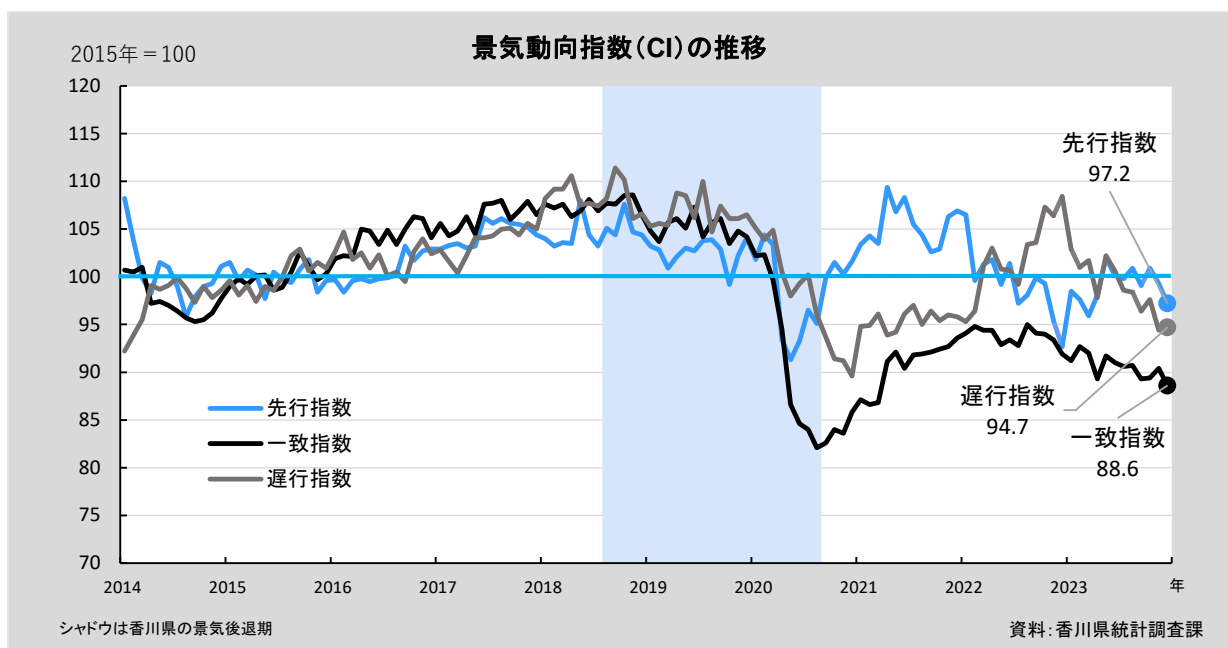


概況	景気は、持ち直している。
個人消費	持ち直しの動きが続いている。
住宅投資	低調に推移している。
公共投資	持ち直しの動きに足踏みがみられる。
生産活動	横ばい圏内の動きとなっている。
雇用情勢	持ち直しの動きに弱さがみられる。
貿易	輸出は減少、輸入は増加している。
観光	持ち直しの動きが続いている。

景気動向指数(かがわCI) 一致指数 3カ月ぶり下降



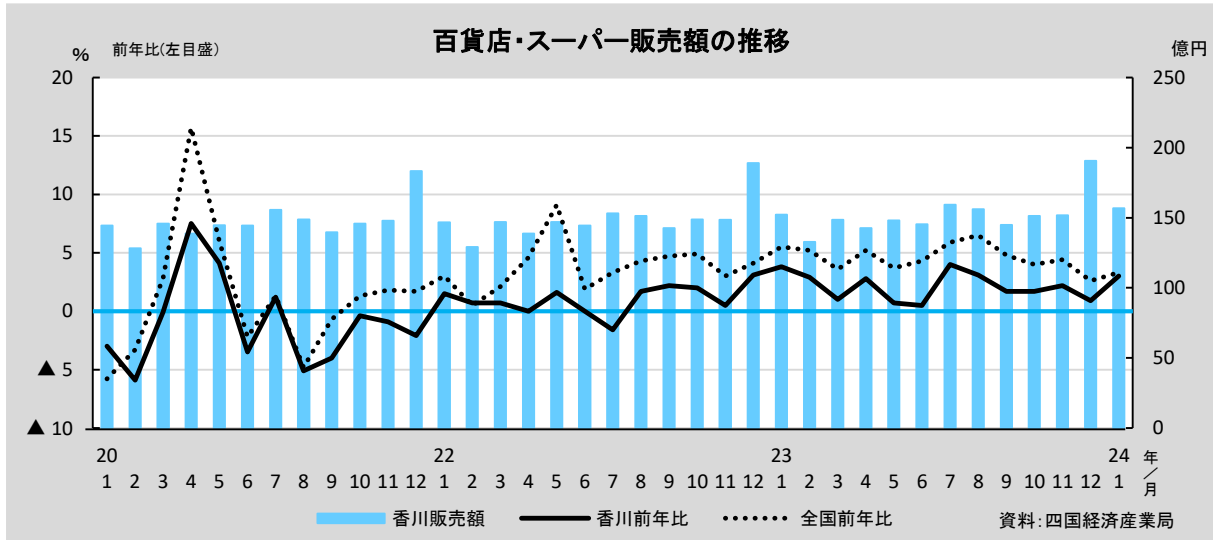
景気の現状をみると、12月のCI一致指数は88.6（前月比▲1.8ポイント）と3カ月ぶりに下降。CI先行指数は97.2（同▲2.1ポイント）と2カ月連続で下降。CI遅行指数は94.7（同+0.3ポイント）と2カ月ぶりに上昇。

景気の現状を示す一致系列の個別指標では、鉱工業出荷指数、雇用保険受給者実人員等が下降に寄与したことにより、前月から1.8ポイントの下降となった。

	先行系列	寄与度	一致系列	寄与度	遅行系列	寄与度
採用 景気 指標	1 新規求人数	▲ 0.04	1 雇用保険受給者実人員	▲ 0.73	1 常用雇用指数	▲ 0.09
	2 乗用車新車登録台数	▲ 0.73	2 有効求人倍率	0.01	2 有効求職者数	0.46
	3 鉱工業在庫率指数	▲ 1.29	3 所定外労働時間指数	▲ 0.30	3 消費者物価指数	▲ 0.42
	4 生産財生産指数	▲ 0.80	4 鉱工業生産指数	▲ 0.57	4 家計消費支出	0.01
	5 新設住宅着工戸数	0.72	5 鉱工業出荷指数	▲ 0.83	5 鉱工業在庫指数	▲ 0.46
	6 金融機関貸出残高	0.07	6 建築着工床面積	0.59	6 法人事業税調定額	▲ 0.25
	7 消費者態度指数	0.18	7 百貨店・スーパー既存店販売額	▲ 0.03	7 第3次産業活動指数	1.27

●百貨店・スーパー販売額

18 カ月連続増加 ↑

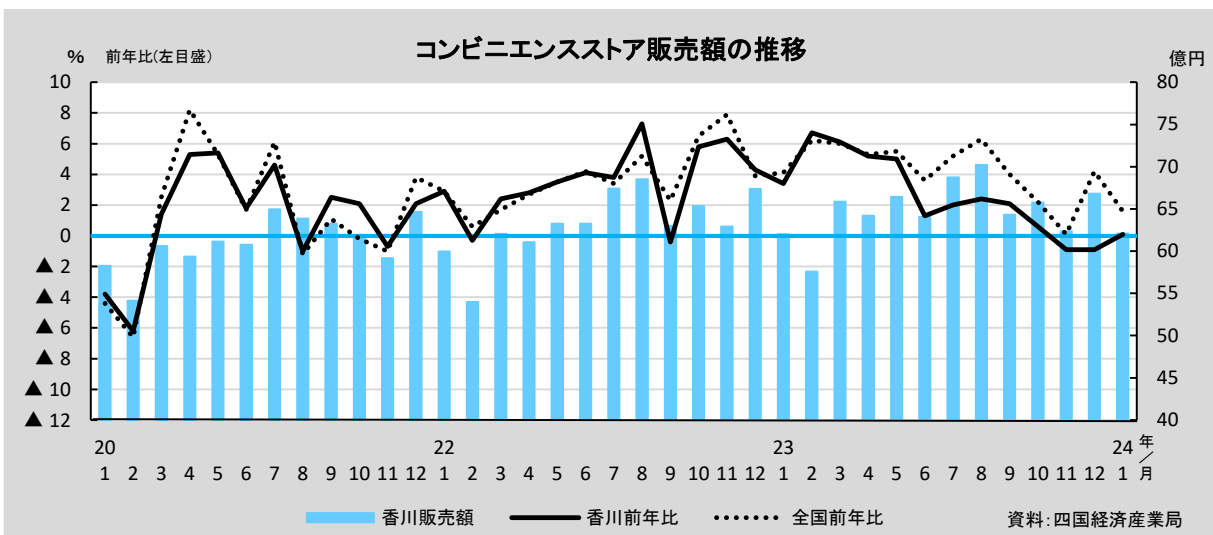


2024/1月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	120,565	76,522	1,129,086	2,471	5,715	68,761	164,372	598	1,568,090
前年同月比(%)	2.9	2.6	3.4	28.3	▲ 6.0	0.5	1.4	31.1	3.0

1月の百貨店・スーパー全店（85店）の販売額は156.8億円で、前年同月比+3.0%と18カ月連続で増加した。「飲食料品」は年末年始帰省の増加により、生鮮野菜・総菜・肉類などの売り上げが伸び同+3.4%と好調だった。「衣料品」は気温の低下により冬物衣料に動きがみられ同+2.9%となった。

●コンビニエンスストア販売額

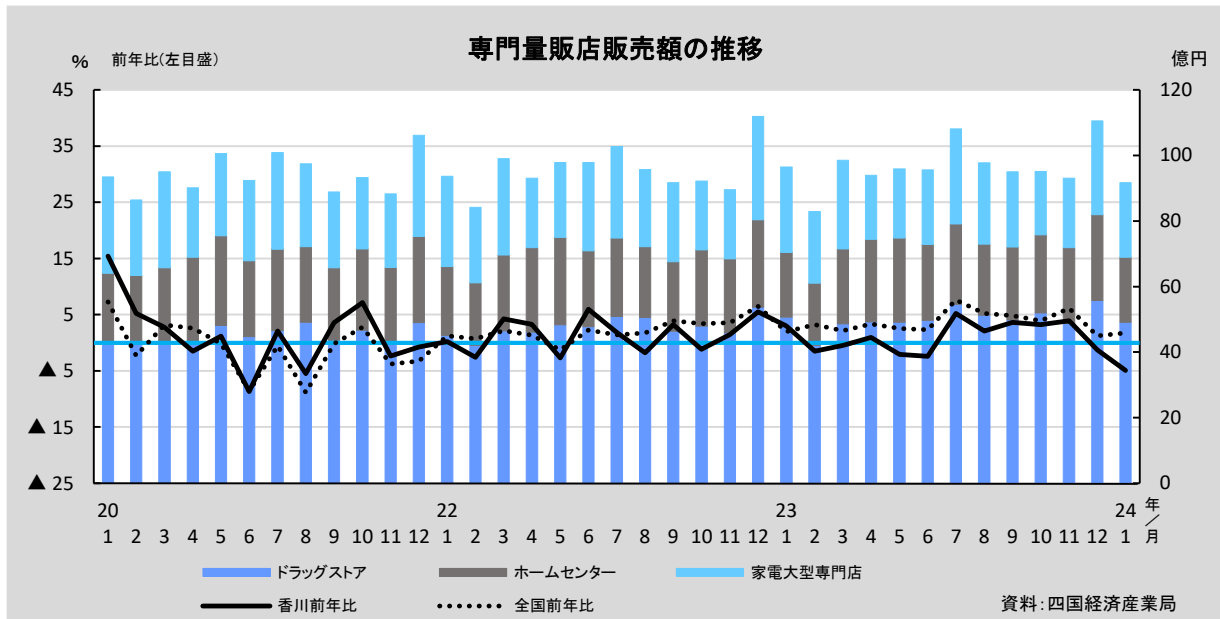
3 カ月ぶり増加 ↑



1月のコンビニエンスストア全店（401店）の販売額は62.1億円で、前年同月比+0.1%となった。外出の機会が増え、パン、ドリンク、化粧品などが伸び3カ月ぶりの増加となった。

## ●専門量販店販売額

2カ月連続減少

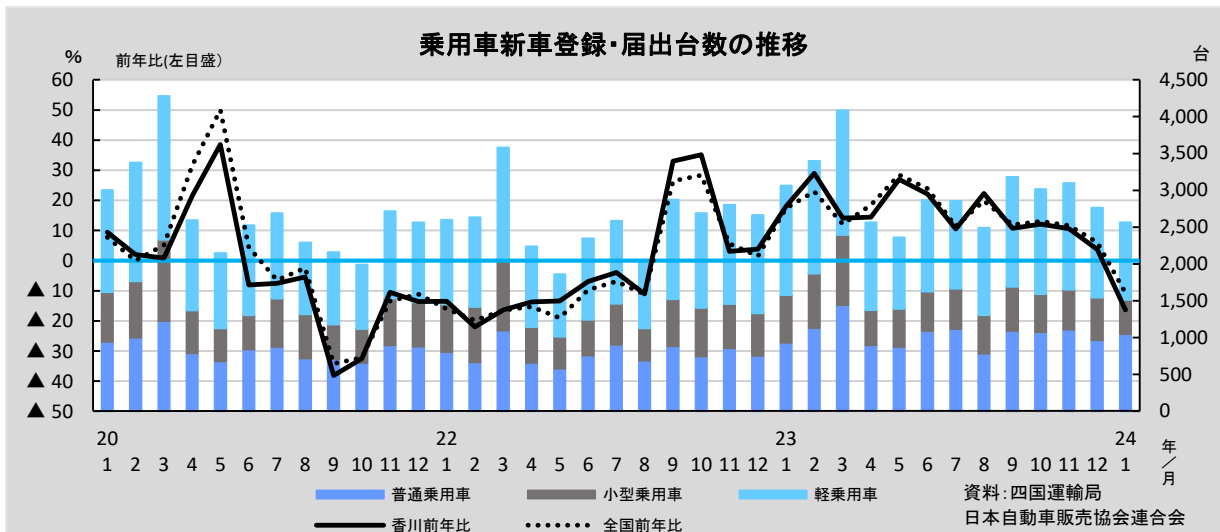


1月の専門量販店全店（217店）の販売額 91.8億円で、前年同月比▲4.9%と2カ月連続で減少した。

業態別にみると、**家電大型専門店**（28店）の販売額は、暖冬で暖房器具などの季節商品の動きが鈍く、22.8億円で前年同月比▲12.6%となった。**ドラッグストア**（142店）の販売額は、49.1億円で同▲3.0%となった。**ホームセンター**（47店）の販売額は、地震の影響で防災用品が伸び、19.8億円で同+0.5%となった。

## ●乗用車新車販売台数

17カ月ぶり減少



1月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は 2,562 台で、認証試験不正問題に伴う出荷停止等が影響し、前年同月比▲16.4%と17カ月ぶりに減少した。

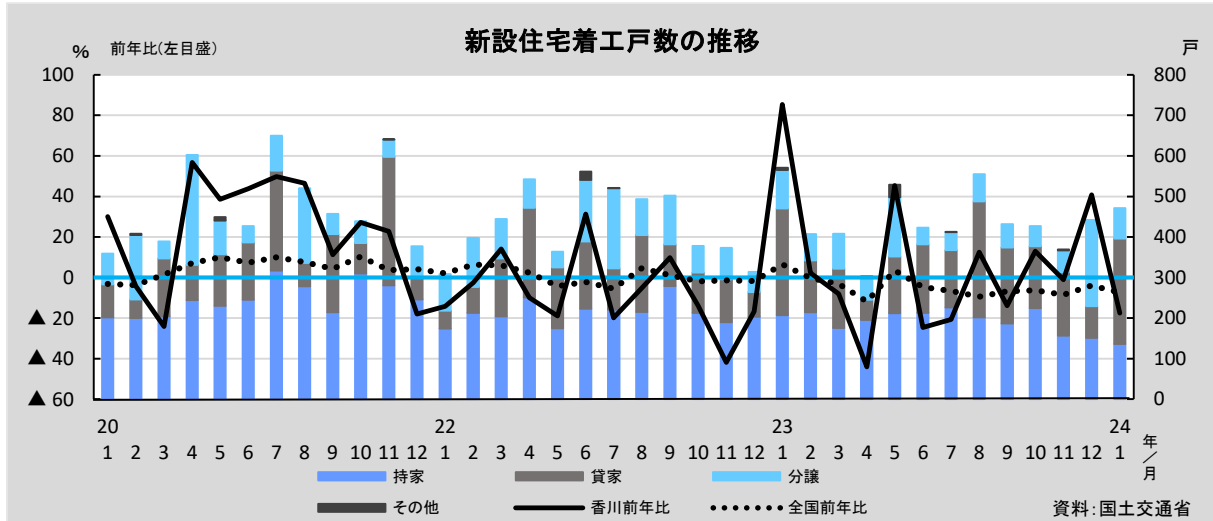
車種別にみると、普通乗用車は前年同月比+12.6%、小型乗用車は同▲28.2%、軽乗用車は同▲29.4%となった。

## 住宅投資

低調に推移している

### ●新設住宅着工

2 カ月ぶり減少 ↓



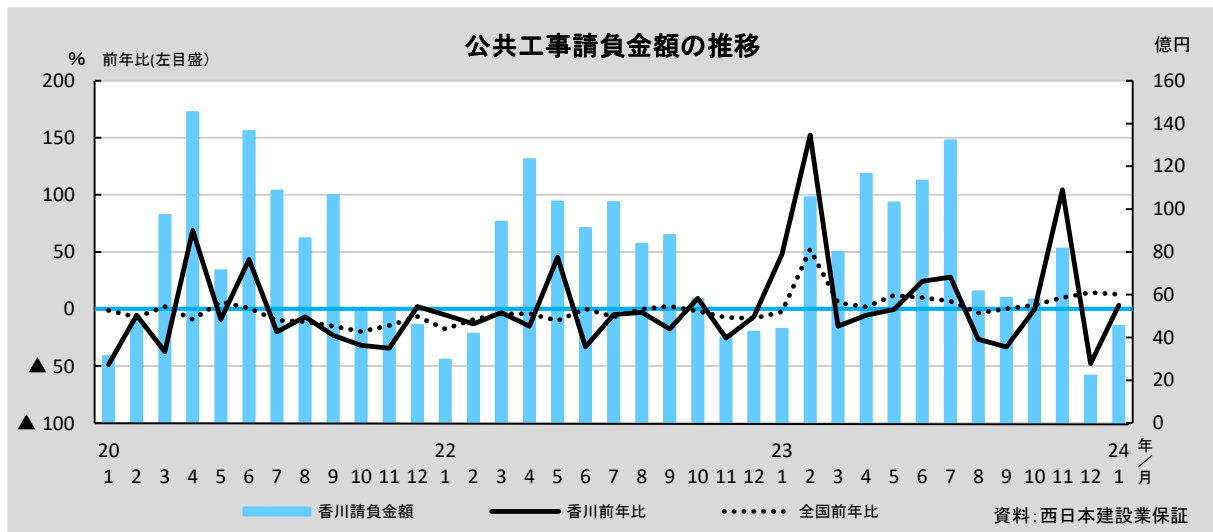
1月の新設住宅着工戸数は471戸で、前年同月比▲17.5%と2カ月ぶりに減少した。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比▲34.3%、**貸家**で同▲1.1%、**分譲住宅**で同▲21.1%となった。

## 公共投資

持ち直しの動きに足踏みがみられる

### ●公共工事請負金額

2 カ月ぶり増加 ↑



1月の公共工事請負金額は45.4億円で、前年同月比+3.1%と2カ月ぶりに増加した。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比▲92.6%、**県**で同▲25.5%、**市町**で同+139.9%となった。

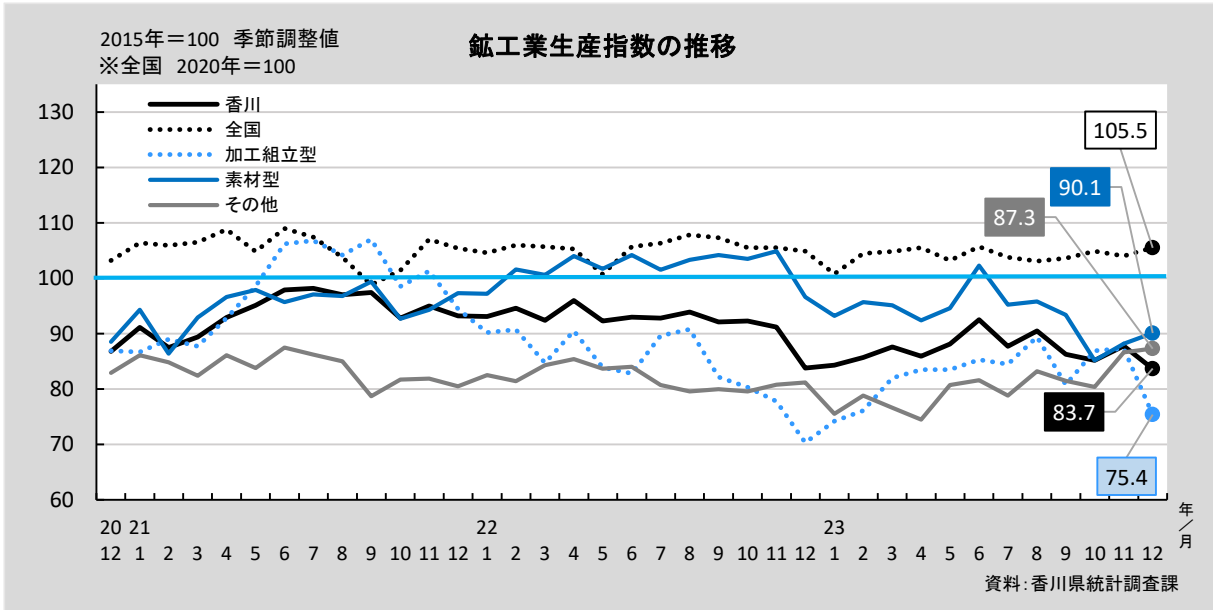
2023.4月～2024.1月の累計では前年同期比1.8%増加している。

生産活動

横ばい圏内の動きとなっている

● 鉱工業生産指数

2カ月ぶり低下 ↓



12月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は83.7（前月87.8）となり、2カ月ぶりに低下した。

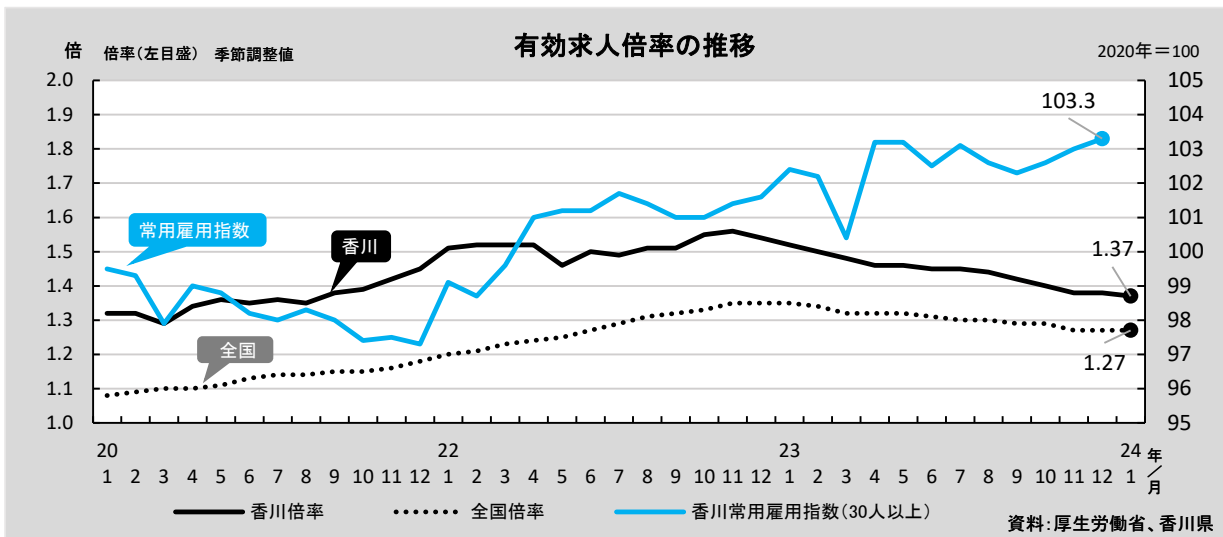
業種別では加工組立型の輸送機械工業（鋼船など）は前月比▲22.4%、加工組立型の電気機械工業（開閉制御装置など）は同▲10.7%と低下した。一方、素材型の非鉄金属工業（電気金など）は同+7.5%と上昇した。

雇用情勢

持ち直しの動きに弱さがみられる

● 有効求人倍率

2カ月ぶり減少 ↓



1月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.37倍（全国12位）となり前月より0.01ポイント低下した。

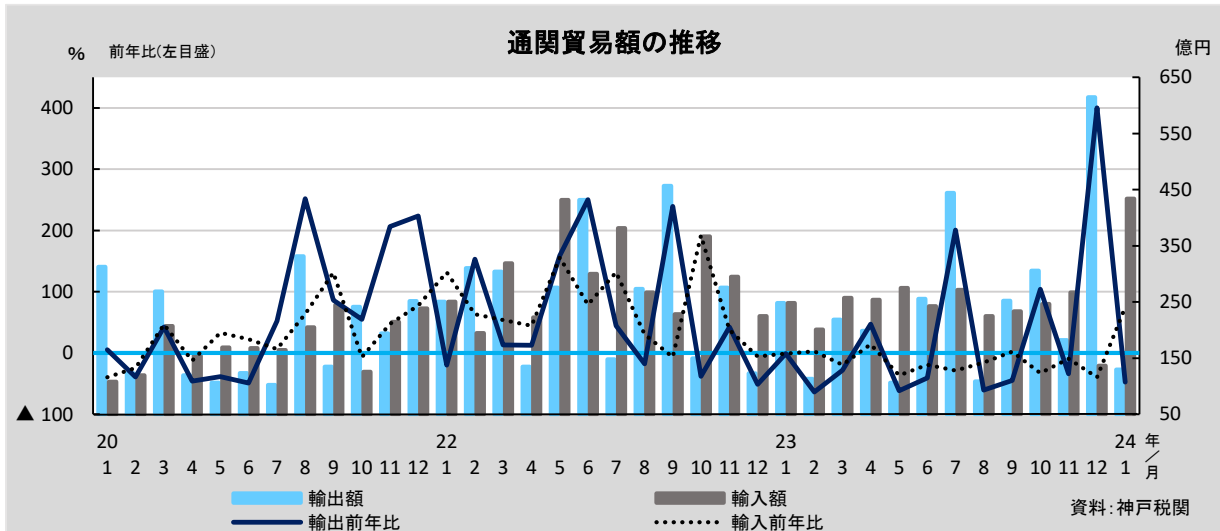
新規求人（原数値：前年同月比）は、宿泊業・飲食サービス業、製造業、運輸業・郵便業、卸売業・小売業等で減少し、全体で▲2.4%と8カ月連続で減少した。

12月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、103.3となり、前年同月比は22カ月連続で増加した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業従事者	2.43
事務従事者	0.73
販売従事者	2.60
サービス職業従事者	3.47
生産工程従事者	2.07
輸送・機械運転従事者	2.33
建設・採掘従事者	6.26
運搬・清掃・包装等従事者	1.19

## 貿易

輸出は減少、輸入は増加している



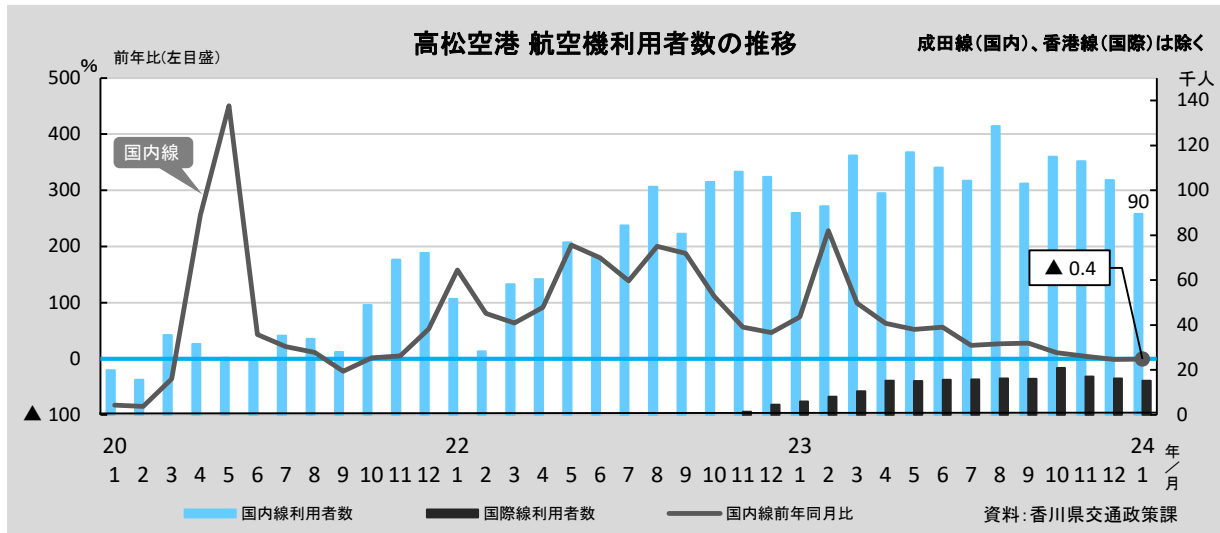
1月の輸出額は前年同月比▲47.6%の129.8億円、輸入額は同+74.9%の433.7億円となり、差し引き303.9億円の入超となっている。

輸出は、前年同月105億円だったタンカー輸出額がゼロとなった。輸入は、石炭輸入額が同3.4倍の246億円となった。

## 交通

国内線は2カ月連続減少、国際線は好調

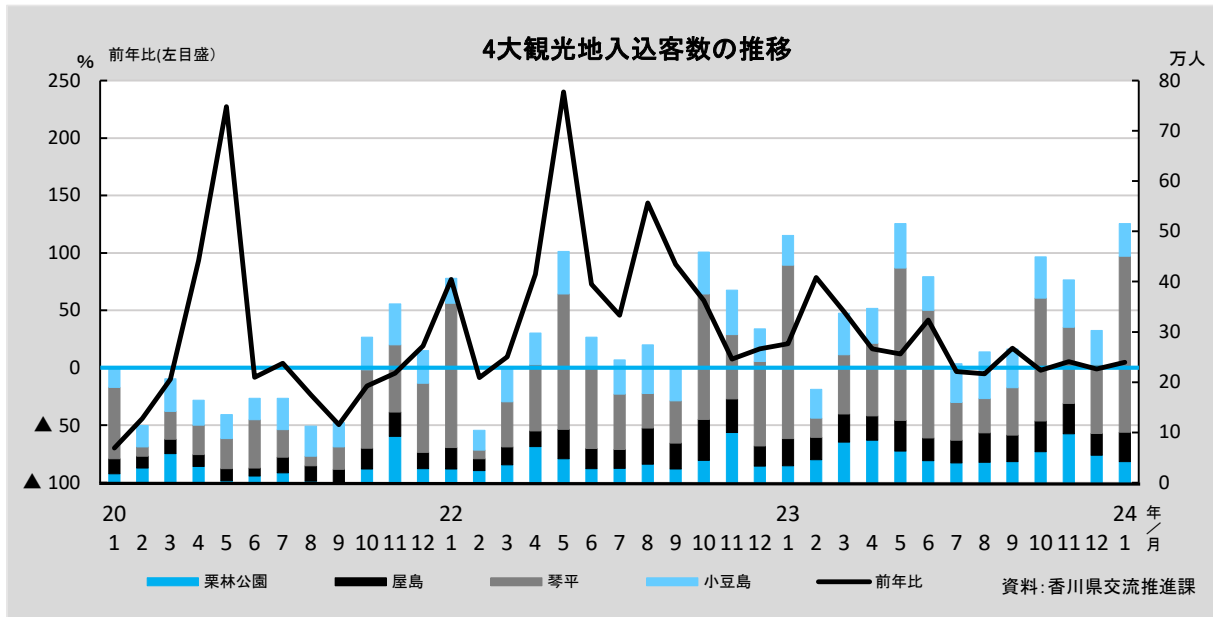
### ●高松空港旅客輸送実績



1月の航空機利用者数は、国内線(羽田・那覇線)が89,544人(前年同月比▲0.4%)となり、2カ月連続で減少した。羽田線は82,862人(同▲0.2%)、那覇線は6,682人(同▲3.0%)となった。

国際線は、ソウル線10,248人、台北線4,926人で合計15,174人(前年同月比+151.2%)と増加した。

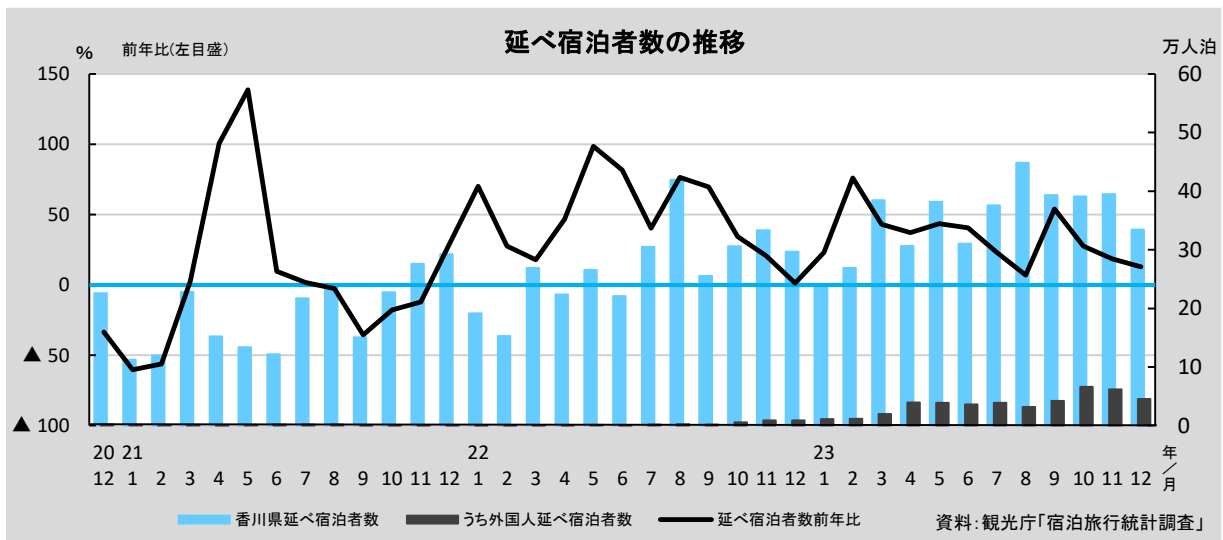
●主要観光地入込客数



観光地入込客数		栗林公園		屋島		琴平		小豆島		合計	
1月(人)	前年同月比	42,113	25.4%	58,492	8.3%	350,000	1.4%	65,057	9.6%	515,662	4.8%

1月の主要観光地の入込客数は、前年同月比+4.8%と2カ月ぶりに増加した。栗林公園は前年同月比+25.4%、屋島は同+8.3%、琴平は同+1.4%、小豆島は同+9.6%と全て増加した。

●延べ宿泊者数



12月の延べ宿泊者数は334,730人で、前年同月比+12.8%と25カ月連続で増加した。コロナ禍前の2019年同月比では▲1.4%となった。

うち、外国人延べ宿泊者数45,690人となり、前年同月比+409.9%と17カ月連続で増加した。2019年同月比では+7.1%とプラスに転じた。